

【セッション3】

開催日時	12月 9日(木曜日) 午前 10:00 ~ 12:00
タイトル	三宅島 2000 年噴火以降の生態系回復過程のモニタリングとその課題
企画責任者	加藤 和弘(放送大学)
趣 旨	三宅島は 2000 年に噴火し、大量の火山灰と火山ガスを放出した。その結果、島のほぼ全体が噴火の影響を受け、森林の 60%が破壊された。島の生態系は現在回復の途上にあり、各分野の研究者により継続的なモニタリングがなされている。孤立度の高い海洋島における大規模な自然災害からの生態系回復について、こうした長期的なモニタリングがなされた例は世界的にも少ない。本企画セッションでは一連のモニタリングにより把握された三宅島の現状を報告するとともに、リモートセンシングをはじめとする今日の環境情報技術の導入など、今後のモニタリングにおける可能性と課題について議論したい。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企画趣旨説明 ○加藤和弘(放送大学) 2. 三宅島 2000 年噴火後の研究の経緯 ○上條隆志(筑波大学) 3. 成果報告(各 15 分) <ol style="list-style-type: none"> 3-1. ○高橋俊守(宇都宮大学)・加藤和弘(放送大学)・上條隆志(筑波大学) 衛星データに見る三宅島 2000 年噴火後 20 年間のランドスケープ変化 3-2. 三宅島 2000 年噴火後の植生回復過程 ○上條隆志(筑波大学) 3-3. 三宅島 2000 年噴火後の土壌呼吸回復過程 ○廣田充(筑波大学) 3-4. 三宅島 2000 年噴火後の土壌動物群集の回復過程 ○青山友輝(筑波大学), 上條隆志(筑波大学), 吉田智弘(東京農工大学), 金子信博(福島大学), 菅原優(筑波大学) 3-5. 2000 年噴火後の三宅島における鳥類群集の回復とそれに関わる環境条件 ○加藤和弘(放送大学)・樋口広芳(慶應大学) 4. 総合討論ならびにコメント (コメンテータ: 樋口広芳(慶應大学)) 5. 総括 上條隆志(筑波大学)